

LINE会話における依頼の談話展開 —日タイ母語場面に着目して—

サクンクルー カンスイニー*

The patterns of requests used in LINE —Focusing on Japanese native speakers and Thai native speakers—

SKULKRU Kansinee

Abstract

This paper aims to analyze the patterns of requests used in LINE role play conversations, focusing on Japanese native situation and Thai native situation. This role play conversations were stimulated real-life situation which could be experienced both in Japanese and Thai university life. Analyzed by following the perspective of discourse analysis, it can be found that both Japanese and Thai showed their consideration for others, but in different ways. When requesting someone for something, Japanese native speakers are likely to show consideration by explaining their situations and reasons very clearly. On the other hands, Thai native speakers show consideration by directly requesting, which is rarely found in Japanese native situation. The findings suggest that LINE chat conversations in Japanese-Thai native situation have their own unique patterns. This paper also provides a suggestion that different cultures shape different conversation styles as well.

Keywords : LINE, Request, Discourse Pattern, Japanese-Thai, Discourse Analysis

1. はじめに

ここ数年のスマートフォンの普及に伴い、直接的な対面会話だけでなくLINEやKakao Talk、WhatsApp、WeChatなどといった無料通話・無料メールのアプリケーションを通じたコミュニケーションが頻繁に行われるようになってきている。2011年6月にサービスを開始して以来、新しいコミュニケーション手段としてLINEを利用する人が増加し続けている。2018年のLINE株式会社の公開資料「LINE アカウント2018年1月～2018年3月媒体資料」および2017年のLINE THAILANDの発表によると、月間アクティブユーザーは2億1,700万人を突破している。その中で、日本人の利用者が最も多く、7,100万人を超えている。次いで多いのは、タイ人の利用者（4,400万人）である。LINEは、主に文字を介して、連絡や気軽なやりとりができる。また、あいづちのような表現の使用や早い返信の繰り返しの場合は、話しているような感覚があり、実際の会話形式に近いのではないかと考えられる。

日タイともにLINEの使用が増加しており、母語場面でも接触場面でもLINEを使用してコミュニケーションをする機会はますます増えていく。しかし、母語や文化・習慣的要素によって、言い方や配慮の表し方が異なると予想できる。依頼は日常にて頻繁に行われる場面であるため、LINE上でもやりとりが行われるであろう。気楽に短文で連絡ができるという特徴を持つLINEでは、どのように会話が進んでいるのかを検討する必要がある。

そこで本研究では、依頼場面を取り上げ、日タイ母語場面における友人同士での依頼談話について調査する。

キーワード：LINE、依頼、談話展開、日タイ、談話分析

*平成30年度生 比較社会文化学専攻

日本語母語話者（以下、JNS）とタイ語母語話者（以下、TNS）はLINEでそれぞれどのように会話を進めているかに着目し、依頼の談話展開を明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

2.1 依頼の定義

「依頼」については、これまで山梨（1986）、中道・土井（1995）、柳（2006, 2012）、林（2016）などで定義されてきた。これらの定義に共通している点は、自身の利益のために相手に負担をかける行為ということである。本研究では柳（2006, 2012）を参考にし、「依頼」という言語行動は、「自分が利益を得るために相手に負担をかけ、ある行為を行うように求める言語行動であり、様々な対人配慮のストラテジーが求められるもの」と定義する。

2.2 母語場面のLINEにおける発話行為に関する先行研究

LINE上での発話行為を分析した研究は、日タイ母語場面のLINEにおける断り場面の謝罪を分析したメグリアングライ（2015）、日韓母語場面のLINEおよびKakao Talkにおける終結部を分析した李（2017）などがある。

まず、メグリアングライ（2015）は、LINE会話に見られる断りにおける謝罪に着目し、友人同士の日本語母語話者とタイ語母語話者の母語場面による誘いに対する断りのロールプレイデータを分析した。その結果、日本語母語場面は、タイ語母語場面より謝罪が多く観察されたことがわかった。また、LINEは非対面会話であり、相手の表情がなどのパラ言語情報が少なく、ミスコミュニケーションが起りやすいため、日本語母語話者には文字による明確な謝罪だけでなく配慮を表すために絵記号やスタンプの使用が見られた。一方、タイ語母語話者は、断りに対する負担をあまり感じていないと考えられるため、謝罪の使用が少ないことやメッセージを送らず、スタンプのみを使用することが観察された。

李（2017）は、日韓母語場面におけるスマートフォンチャット（LINEとKakao Talk）の終結部に着目し、終結部を「終結始まり・中間部」と「終結終わり部」の2段階に分け、構成要素と展開パターンを中心に分析した。終結部が存在しないチャットは観察されたが、日韓の間にそれほどの違いは見られなかった。終結部が存在しているチャットを終結部全体から見ると、観察された構成要素は、韓国語チャットが日本語チャットより多く使用されている。展開パターンにおいても、終結始まりの発話に対する反応が見られる「拡大型」は、日本語チャットより韓国語チャットの方が多く観察された。また、チャットの終結部において日本語チャットは、韓国語チャットよりスタンプの使用が多く見られた。韓国語母語話者は日本語母語話者より様々な構成要素を使用しながらチャットを終結しており、日韓で特有の構造があることがわかった。

以上をまとめると、LINEでは言語によって断り方や談話の構成要素および展開パターンに違いが見られることがわかった。したがって、LINEにおける日タイ母語場面の依頼談話で異なる展開パターンが見られると予想され、明らかにする必要があると考える。

2.3 メディアを通じた依頼の談話展開に関する先行研究

メディアを通じた依頼の談話展開の先行研究として、日台母語場面の電子メールを分析した李（2004）、日中韓母語場面の電話会話を分析した生天目他（2012）、日中接触場面および中国語母語場面におけるLINEの終結部を分析した金（2016）などがある。

李（2004）は、台湾と日本でそれぞれの母語による友人同士の電子メールにおける依頼行動の展開と依頼ストラテジーを分析した。その結果、電子メールによる依頼は「①予告（件名）→②依頼前の行動→③予告（本文）→④先行依頼→⑤依頼→⑥依頼後の行動」の6段階から成り立つことがわかった。日台の違いは、「②依頼前の行動」と「③予告（本文）」にある。台湾のメールでは「②依頼前の行動」と「③予告（本文）」の使用が少なく、日本語のメールの使用の半数を下回っている。また、台湾人は前置きなどといった予告をしてから依頼行動を行うより、直ちに依頼行動を行うのが一般的だと述べている。

生天目他（2012）は、架空の依頼の電話会話をデータとし、日中韓の友人会話における依頼の談話展開パターンを明らかにした。談話展開の構成要素を、「前置き」「概要説明」「詳細説明」「依頼発話」の4つに分け、前置

きを除く3つの構成要素による談話展開パターンを、①「依頼発話—概要説明—詳細説明」、②「概要説明—依頼発話—詳細説明」、③「概要説明—詳細説明—依頼発話」、④「依頼発話なし」の4つのパターンに分類した。負担度が高い場面の場合、日中韓では②の「概要説明—詳細説明—依頼発話」パターンが多く使用されている。相手への負担度と親密度による影響は、言語によって違いが見られた。日本語では負担度と親密度の違いによる影響はあまり見られなかった。一方、中国語では負担度と親密度の違いによる影響が、韓国語では負担度の違いによる影響が観察された。

金 (2016) は、LINE接触場面における依頼談話の終結部に着目し、日中接触場面と中国語母語場面を対象とする依頼場面のロールプレイデータを分析した。特に日本語母語話者が依頼した日中接触場面の場合は、やりとりの最終的段階で、スタンプや文末に絵文字が多く使用されている。日中接触場面で、会話終了の仕方に関する問題が存在したことがわかった。つまり、金 (2016) は、日本語母語話者が一送信で様々な発話類型を使用したことで早く会話を終わらせたいという印象を与え、LINE会話の相手である中国語母語話者から否定的に評価されたと述べている。

これまでの依頼の談話展開に関する先行研究では、メールや電話などのメディアを通じて様々な手法がとられてきた。電子メールでは、一通のメール (すなわち、一送信) で依頼する側は依頼に関する内容を全て書いている。しかし、金 (2016) が指摘しているように、LINE上でのメッセージの送信は、一送信でメールのように様々な内容を書くか、何回かに分けてメッセージを送信するかによって依頼の談話展開が異なると予想される。そこで本研究は、新しいコミュニケーション手段であるLINEで、日タイ母語場面の依頼談話においてどのような談話展開パターンが見られるかを明らかにすることを目的とする。

3. 研究課題

本研究では以下のように研究課題を設定する。

研究課題1 LINE会話における依頼場面でJNSとTNSはどのような談話展開パターンを使用しているか。

研究課題2 LINE会話における依頼場面でのJNSとTNSによる談話展開パターンの使用の違いは見られるか。

4. 研究方法

4.1 データ収集方法

2017年5月から10月にかけて日本語母語場面30組、タイ語母語場面30組¹、計60組の対一の友人同士のLINE会話データを収集した。同等関係における依頼を分析対象とするため、実生活でも友人同士のデータが望ましいと考えた。また、性差による影響を排除するため、日本人女性同士とタイ人女性同士を対象とした。本研究は、日タイ母語場面での依頼談話の相違を明らかにするため、同じ条件の場面設定が可能なロールプレイ形式の方法を採用した。

ロールプレイは、ナカミズ (1992) および林 (2016) を参考にし、日本とタイ両国の大学生活で起こりうる「友だちにLINEでレポート作成のために必要な本を貸してほしいと頼んだが、友だちもその本が必要なので貸すことはできない」という状況を設定した。ロールカードは日本語版とタイ語版を作成した。以下の表1は、日本語版のロールカードである。

表1 ロールカード (日本語版)

場面： レポート作成のために必要な本を借りる
ロールカードA：依頼する側 あなたは、来週締め切りのレポートを書いています。そのレポート作成のためにある本が必要ですが、その本を持っていません。友だちのBにLINEで本を貸してほしいと頼んでください。
ロールカードB：依頼される側 あなたは、友だちのAからLINEでレポート作成のために必要な本を貸してほしいと頼まれました。しかし、その本はあなたが今書いているレポートに必要なので、Aに貸すことができません。Aの頼みを断ってください。

4.2 分析方法

4.2.1 分析対象

本研究では、依頼のために会話を開始し、依頼が成立するまでの一連の会話を依頼談話とする。依頼する側による会話のはじめから依頼発話が出てくるまでの「依頼」部分の発話を分析対象とする。

会話例1は日本語母語場面の依頼談話のデータの一部で、JNS11は依頼する側であり、JNS12は依頼される側である。JNS11は自分の状況を相手に説明した後、レポートに必要な本を貸してくれるようにJNS12に依頼する。2行目の「貸してもらってもいい？」の部分が依頼発話であり、会話のはじめ「ねえねえ」から依頼発話「貸してもらってもいい？」が出てくるまでの発話を分析対象とする。

会話例1 (JNS11: 依頼する側、JNS12: 依頼される側)

1	JNS11	ねえねえ🙄🙄 X先生のレポート来週締め切りなのに本持ってなくてまじやばいんだけど!🙄
2	JNS11	JNS12ちゃん持ってたよね? <u>貸してもらってもいい?</u> 🙄🙄

なお、本研究では、文字によるやりとりにより焦点を当て、分析することを目的としているため、顔文字や絵文字、記号といった絵記号を分析対象としない。また、LINEスタンプについては、解釈の違いによる影響を防ぐため、絵のみのスタンプは分析対象外とするが、文字付きのスタンプなど言語的要素を含むものは分析対象とする。

4.2.2 分析枠組みとコーディングの手順

まず、依頼の談話展開に係る分析枠組みについて述べていく。生天目他(2012)は、依頼の談話展開を「①前置き」、「②概要説明」、「③詳細説明」、「④依頼発話」の4段階に分類した。LINEの依頼談話がどのように展開されているかを分析するために、本研究は生天目他(2012)を参考にし、本研究のデータに合わせて修正した枠組み²を使用する(表2を参照)。談話展開の構成要素としては[①注目要求]、[②前置き]、[③情報提供・確認]、[④依頼発話]の4つを設定する。日タイ母語場面ではどのように依頼の意図を伝えるか、各構成要素の出現順序を分析する。

表2 依頼の談話展開の構成要素

構成要素	定義	日本語の使用例	タイ語の使用例
①注目要求	呼びかけや挨拶など相手の注目を引くための発話	〇〇ちゃん おつかれさま	แกจ (ねえねえ)
②前置き	相手に依頼の意思を予告するための発話	実は〇〇ちゃんに一つのお願 いがある	มีเรื่องรบกวนน (お願いがある〜)
③情報提供・ 確認	状況や依頼する理由の説明、依頼を成立させるために必要とする発話	来週締め切りのレポートある やん?あれ書くために必要な 本、持ってなかったっけ?	พอดีว่าอาจารย์จะให้ทำรายงานอะ แต่หนังสือเราหาย (実は、レポート課 題があったけど、本なくしちゃって)
④依頼発話	依頼の意図を伝える発話	貸してもらってもいい?	เราขอยืมได้ไหม (借りていい?)

本研究ではロールプレイの設定場面「レポート作成のために必要な本を借りる」に合わせ、「本を貸してほしい」という依頼の内容を伝えずに依頼の予告のみ(例:「お願いがある」)の発話は[②前置き]とし、「貸す」や「借りる」が含まれた発話を[④依頼発話]とする。

コーディングの手順は以下のとおりである。まず、「依頼」の分析対象となる発話を抽出する。そして、「依頼」を談話展開の構成要素に当てはめた後、出現した構成要素をパターン化[構成要素1→構成要素2→...]する。以下、談話展開の構成要素は[]を使用し表示する。

以下の会話例2の1および2が「依頼」の分析対象である。

会話例2の1および2の場合、(1) JNS24ちゃん、(2) やっほー!、(3) ちょっとお願いが…。(4) 今英文のレポート書いてんねんけど、(5) JNS24ちゃん英文レポート作成のハウツー本って持ってる?、(6)

持っていたら、(7) 貸してほしいなと思ひ…。をそれぞれ1つの発話とカウントしている。

次に談話展開の分析方法であるが、表2の分類に従って、(1) JNS24ちゃんと(2) やっほー！が[①注目要求]、(3) ちょっとお願いが…。が[②前置き]、(4) 今英文のレポート書いてんねんけどおよび(5) JNS24ちゃん英文レポート作成のハウツー本って持ってる？が[③情報提供・確認]、(6) 持っていたらおよび(7) 貸してほしいなと思ひ…。が[④依頼発話]とコーディングする。そして、その結果をもとに、コーディングおよびパターン化の例を以下に示す。

会話例2 (JNS23: 依頼する側、JNS24: 依頼される側)

1	JNS23	(1) JNS24ちゃん [①注目要求]、 (2) やっほー！ [①注目要求]、 (3) ちょっとお願いが…。 [②前置き]、 (4) 今英文のレポート書いてんねんけど [③情報提供・確認]、 (5) JNS24ちゃん英文レポート作成のハウツー本って持ってる？ [③情報提供・確認]
2	JNS23	(6) 持っていたら [④依頼発話] (7) 貸してほしいなと思ひ…。 [④依頼発話]
3	JNS24	おー JNS23～！ 持ってるねんけど、今ちょうど私もレポート書くのに使ってるねんー☹ ごめんねー！
4	JNS23	おお・そっか。じゃあ図書館で探してみよっと！

会話例2に見られる依頼の談話展開の構成要素を[①注目要求→①注目要求→②前置き→③情報提供・確認→③情報提供・確認→④依頼発話]とコーディングする。[①注目要求]、[③情報提供・確認]、[④依頼発話]が続いて使用されているが、同じ談話展開の構成要素を続けて使用した場合は、何回使っても1回とカウントする。よって、会話例2に見られる依頼の構成要素を[①注目要求→②前置き→③情報提供・確認→④依頼発話]のようにパターン化する。

5. 結果と考察

5.1 研究課題1 JNSとTNSが使用している談話展開パターン

談話展開の構成要素として、[①注目要求]、[②前置き]、[③情報提供・確認]、[④依頼発話]の4つを設定した。そして、本研究のデータに合わせて、①から④を組み合わせた結果、9パターンに分けられた。

JNSとTNSによる談話展開パターンの使用頻度は、以下の表3のとおりである。

表3 依頼の談話展開パターン (日タイ比較)

依頼の談話展開パターン	JNS		TNS	
	使用回数	割合 (%)	使用回数	割合 (%)
1型 [①注目要求→②前置き→③情報提供・確認→④依頼発話]	6	20.00	—	—
2型 [①注目要求→②前置き→④依頼発話→③情報提供・確認]	1	3.33	1	3.33
3型 [①注目要求→③情報提供・確認→②前置き→④依頼発話]	1	3.33	—	—
4型 [①注目要求→③情報提供・確認→④依頼発話]	17	56.67	11	36.67
5型 [①注目要求→④依頼発話→③情報提供・確認]	—	—	13	43.33
6型 [②前置き→③情報提供・確認→④依頼発話]	1	3.33	—	—
7型 [③情報提供・確認→①注目要求→④依頼発話→③情報提供・確認]	1	3.33	—	—
8型 [③情報提供・確認→④依頼発話]	—	—	5	16.67
9型 [依頼発話なし] ³	3	10.00	—	—
合計	30	100	30	100

5.1.1 JNSが使用している談話展開パターン

表3で示したように、JNS 30組による談話展開パターンは7種類見られた。5型と8型はJNSの談話には見られなかった。4型〔①注目要求→③情報提供・確認→④依頼発話〕が最も多く使用されており、JNS 30組中17組(56.67%)に見られた。続いて多く使用された談話展開パターンは1型〔①注目要求→②前置き→③情報提供・確認→④依頼発話〕(6組、20.00%)、9型〔依頼発話なし〕(3組、10.00%)であった。

以下は、JNSに最も多く使用された4型〔①注目要求→③情報提供・確認→④依頼発話〕談話展開パターンの会話例である。会話例3では、JNS1はまず相手に呼びかけをし、これから依頼することに関する説明・確認をしてから依頼の意図を伝えた。

会話例3 (JNS1：依頼する側、JNS2：依頼される側)

1	JNS1	ねえねえ、〔①注目要求〕 来週締め切りのレポートなんだけど、そのレポート本持っていたりするかしら？ 🙋🙋〔③情報提供・確認〕
2	JNS1	もし、使ってなかったら貸してもらえたりする？ 🙏🙏 〔④依頼発話〕
3	JNS2	ごめん！！レポート書き終わってなくて、 今つかってるところなんだ... お役に立てず本当にごめんね (>_<)

JNSは相手に呼びかけただけでなく、自分の状況やなぜ依頼するのかについて具体的に説明して配慮を示している。つまり、JNSの依頼では、依頼談話を開始するために相手の名前や挨拶のことばなどで相手に呼びかけて、これから依頼することを相手に予告しつつ、自分の状況を理解してもらうように事情を説明しながら、依頼へと展開していくという流れが考えられる。

5.1.2 TNSが使用している談話展開パターン

TNS 30組による談話展開パターンは5種類見られた。5型〔①注目要求→④依頼発話→③情報提供・確認〕が最も多く使用されており、TNS 30組中13組(43.33%)に見られた。続いて多く使用された談話展開パターンは4型〔①注目要求→③情報提供・確認→④依頼発話〕(11組、36.67%)、8型〔③情報提供・確認→④依頼発話〕(5組、16.67%)であった。

以下は、TNSに多く使用された上位2パターンの会話例である。

会話例4は、5型〔①注目要求→④依頼発話→③情報提供・確認〕の談話展開パターンである。TNS47は、相手に呼びかけをした後、すぐに依頼した。依頼についての説明や理由は依頼の後に現れた。

会話例4 (TNS47：依頼する側、TNS48依頼される側)

1	TNS47	TNS48 เราขืมหนังสือวิชาระบบเสียงหนอยดิ จะทำรายงานอะ	TNS48 〔①注目要求〕、ちょっと音声の授業の本貸して。〔④依頼発話〕レポート書くの〔③情報提供・確認〕
2	TNS48	พน. เราต้องไขเหมือนกันอะ	わたしも明日使うの
3	TNS48	 Sticker	 スタンプ

会話例5は、4型〔①注目要求→③情報提供・確認→④依頼発話〕である。TNS31は、まず相手に呼びかけをし、これから依頼することに関する説明・確認をしてから依頼の意図を伝えた。

会話例5 (TNS31: 依頼する側、TNS32: 依頼される側)

1	TNS31	TNS32 ㄱ	TNS32—— [①注目要求]
2	TNS31	หนังสือวรรณคดียังอยู่ไหม	文学の本ってまだ持ってる? [③情報提供・確認]
3	TNS31	จะขอยืมหน่อย	ちょっと借りたいなと思って [④依頼発話]

TNSには4型 [①注目要求→③情報提供・確認→④依頼発話] と5型 [①注目要求→④依頼発話→③情報提供・確認] の談話展開パターンが多用されていることがわかった。

5.2 研究課題2 JNSとTNSによる談話展開パターンの使用の違い

研究課題1でJNSとTNSが使用している依頼の談話展開パターンが明らかになった。全体的に見ると、JNSは [①注目要求] で相手に呼びかけた後、[③情報提供・確認] してから [④依頼発話] をする。それに対し、TNSには相手に呼びかけた後、[③情報提供・確認] するか、先に [④依頼発話] を述べるか、どちらのパターンも見られた。

そこで、研究課題2では、談話展開パターンの2つの構成要素である [③情報提供・確認] と [④依頼発話] に着目し、使用順を比較することで日タイによる違いが見られるかについて述べていく。

表4 日タイに見られる主な構成要素の使用順

	JNS		TNS	
	使用回数	割合 (%)	使用回数	割合 (%)
[③情報提供・確認→④依頼発話]	*26	86.67	16	53.33
[④依頼発話→③情報提供・確認]	1	3.33	*14	46.67
依頼発話なし	3	10.00	—	—
合計	30	100	30	100

*p<.05

表4は、日タイに見られる主な依頼の談話展開パターンの構成要素の使用順を示したものである。JNS 30組中26組 (86.67%) とTNS 30組中16組 (53.33%) が [③情報提供・確認→④依頼発話] の順で使用しており、日タイともに [③情報提供・確認→④依頼発話] が最も多く使用されているという点が共通している。しかし、TNSは [④依頼発話→③情報提供・確認] (TNS 30組中14組、46.67%) を [③情報提供・確認→④依頼発話] (TNS 30組中16組、53.33%) と同じぐらいの割合で使用している。

そこで、日タイにおいてこの2つの構成要素の使用傾向は統計上に有意差が見られるか、カイ二乗検定を行った。結果、情報提供・確認→④依頼発話] において、JNSがTNSより有意に高かった ($\chi^2=7.937, p<.05$)。また、[④依頼発話→③情報提供・確認] において、TNSがJNSより有意に高かったこと ($\chi^2=15.022, p<.05$) がわかった。

以上の結果から、JNSとTNSの主な依頼の談話展開パターンは以下の図1、図2のように表すことができる。図1に見られるように、JNSは [①注目要求] から依頼談話を開始し、[③情報提供・確認] の展開で相手の共感や理解を得ながら、[④依頼発話] を述べるという展開があると考えられる。森山 (1995) によると、依頼行動の中で、依頼のあつかましさ小さくするためには依頼の共感度が重要な要素の一つであると述べられている。よって、JNSにとって [③情報提供・確認] は大切な役割を果たしており、全ての情報を与えた上で相手に判断してもらうことが、配慮を示すことにつながると思われる。

一方、TNSは [①注目要求] で相手に呼びかけた後、JNSと同様な流れも見られるが、7型 [①注目要求→④依頼発話→③情報提供・確認] のように早く [④依頼発話] を伝えてから [③情報提供・確認] で追加の情報と

して状況や理由を説明するパターンも見られた。TNSの談話展開パターンを見ると、[③情報提供・確認]が[④依頼発話]の前にあることもあれば、後ろにあることもある。このことから、[③情報提供・確認→④依頼発話]の順序に関わらず、依頼の内容を相手に伝えることができれば依頼は円滑に成立したとみなされていると考えられる。これは、配慮を必要とする依頼場面で、[③情報提供・確認]の位置はタイ語では特に問題にならないことを意味しており、すぐに依頼の意図を伝えることも、TNSの友人同士に見られる配慮の表し方の一つであろう。

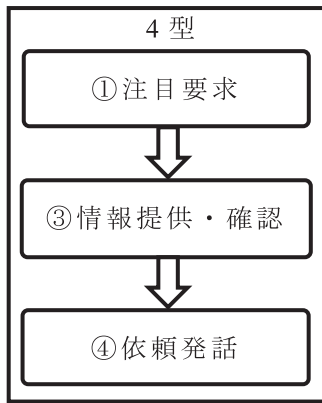


図1 JNSの依頼の談話展

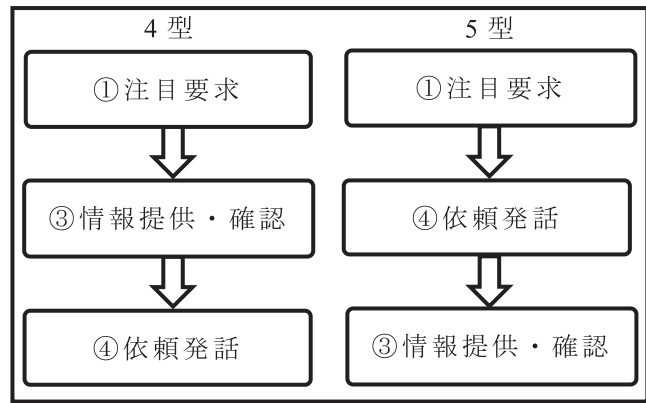


図2 TNSの依頼の談話展

6. まとめと今後の課題

本研究は、日タイ母語場面のLINE会話で見られる依頼の談話展開の特徴を明らかにした。依頼の談話展開パターンとしては、JNSにもTNSにも4型 [①注目要求→③情報提供・確認→④依頼発話] が共通して多く見られた。JNSには4型 [①注目要求→③情報提供・確認→④依頼発話] の使用が他のパターンを大きく引き離して多いが、TNSには5型 [①注目要求→④依頼発話→③情報提供・確認] の使用も4型と並んで多く見られた。

以上の結果を踏まえて、依頼談話における日タイ両言語での配慮の表し方が異なっていることがわかった。JNSは依頼行動は相手に負担をかけると感じているためか、依頼発話を述べる前に依頼に関する情報や理由を説明し、相手からの共感や理解を得るようにしている。一方、TNSはJNSの依頼行動に対する認識と違い、[③情報提供・確認]が[④依頼発話]の後に現れる例もあった。タイ語の依頼談話において、最初に本題である[④依頼発話]を述べる談話展開パターンが失礼ではないと考えられていると思われる。こうした配慮の表し方の違いによって、依頼の談話展開に差が現れると言える。

本研究では、日タイ母語場面のデータのみ収集・分析した対照研究であるため、日タイ接触場面においてタイ人日本語学習者が日本語母語話者とのようにやりとりをしているか、母語場面とはどのような違いが見られるかについて確認できなかった。今後は、日タイの日本語接触場面のデータを収集し、日タイ母語場面と比較する必要があると考える。また、今回は依頼する側に着目し、依頼する側による発話を会話のはじめから依頼発話が出てくるまでの部分のみしか見ておらず、依頼される側の言語行動に注目していなかった。しかし、LINE会話はメールのように一送信での内容の完結性が求められず、依頼する側と依頼される側の双方によって構築される。したがって、依頼される側の言語行動が会話の流れに影響することが予想される。LINE会話における依頼場面の全体像をより明らかにするため、相互行為の視点から捉えることを今後の課題としたい。

注

- 1 TNSの一部は主専攻で日本語を学習しているが、日本語能力は初中級であり、普段から日本人との接触は少ない。
- 2 生天目他 (2012) は、依頼の談話展開を「①前置き」「②概要説明」「③詳細説明」「④依頼発話」の4段階に分類した。本研究は、本

研究のデータに合わせるため、生天目他（2012）の分析枠組みを修正し、[①注目要求]、[②前置き]、[③情報提供・確認]、[④依頼発話]の4つを設定した。

3 [④依頼発話]が現れなかった談話展開パターンである。

参考文献

- 李涓丞（2017）「スマートフォンチャットの終結部の日韓対照研究—構成要素と展開パターンを中心に—」『言語文化と日本語教育』52, 1-10
- 金鑫（2016）「LINE接触場面における会話終結部の研究：日本語母語話者と中国人日本語学習者の依頼談話から」『東海大学大学院日本語教育学論集』1(3), 46-68
- ナカミズ エレン（1992）「日本語学習者における依頼表現—ストラテジーの使い分けを中心とし—」『待兼山論叢』26, 49-69
- 中道美木男・土井真美（1995）「日本語教育における依頼の扱い」『日本語学』14(11), 84-93
- 生天目和美・劉雅静・大和啓子（2012）「日中韓の友人会話における依頼の談話展開」『筑波応用言語学研究』19, 15-29
- 林賀代（2016）「依頼表現の異文化比較（日中）—ポライトネスの視点から中間言語を探る—」『神戸親和女子大学大学院研究紀要』12, 63-80
- メグリアングライ ポンティパー（2015）「「LINE」における「勧誘に対する断り」に見られる謝罪—タイ語母語話者と日本語母語話者の比較に着目して—」『言語文化と日本語教育』49, 110-113
- 森山卓郎（1995）「「丁寧な依頼」のストラテジーと運用能力—依頼の手紙の書き方を例に—」『日本語学』14(11), 94-101
- 山梨正明（1986）『発話行為』大修館書店
- 柳慧政（2006）「日韓の依頼談話の開始部の対照研究—会話分析資料を中心に—」『学習院大学国語国文学会誌』49, 1-16
- 柳慧政（2012）『依頼談話の日韓対照研究—談話の構造・ストラテジーの観点から—』笠間書院
- LINEアカウント2018年1月～2018年3月媒体資料
<http://ad-center.line.me/mediaguide/contents_type=101>（2018年8月17日 アクセス）
- 李佳盈（2004）「電子メールにおける依頼行動：依頼行動の展開と依頼ストラテジーの台日対照研」『言語文化と日本語教育』28, 99-102.
- คนไทยใช้ LINE อันดับสองของโลก <<https://www.voicetv.co.th/read/472506>>（2018年8月17日 アクセス）

